

抄 信心正因

一．題意

「信心正因」とは、本願の名号聞信のその時に往生成仏すべき身と定まることをいう。

二．出拠

(一)『正像末和讃』No48 (Ref 全書 P521、註釈版初版 P608) (考察)本証は、難信の文証でもある。

不思議ノ仏智ヲ信ズルヲ報土ノ因トシタマヘリ

信心ノ正因ウルコトハカタキガナカニナホカタシ

(二)正定之因ハ唯信心ナリ(『正信偈』曇鸞章)

(三)『教行信証』『信文類』:例えば次の三箇所 全 2-48, 59, 72 が挙る。

大信心者、則是…証大涅槃之真因(Ref「大信釈」嘆徳出願、全 2-48 註 P211)

涅槃真因唯以信心(Ref「信文類本 三一問答字訓釈」全 P2-59、註釈版 P229)

信心無二心故曰一念、是名一心、一心則清淨報土真因也(『現生十益』全 P2-72) 註 P251

三．^{しゃくみょう}釈名:「釈名」とは、名目(教義概念)を解釈する意、教義概念規定をいう。文言の定義である。

「信心」とは、願文の信樂、成就文「信心歡喜」の「信心」をいい、本願の名号を如実に聞信することをいう。

「正因」とは、衆生が往生即成仏する証果を得るための正しき因(涅槃の真因)を言う

四．^{ぎそう}義相

(一)機受の全相と極要

ア)願文には三心十念が誓われ願力が衆生に働く機受の全相が表わされている一方

イ)成就文には本願の名号聞信のその時に往生が定まる機受の極要が示されている。

(二)名号業因と信心正因の対比 真宗の教義と安心 P44 に称名との関係に替えて名号業因との対比が記載されている。

ア)名号は一切衆生の往生成仏の原因となる働きであるから名号業因という一方、

イ)個々人にその力が至り届いたときにその人の往生成仏が定まるので信心正因という。

(三)信心と称名の関係 付線部は伝統教学の認識である。

願文の三心(信心)と十念(称名)のうち、信心が正因で称名は信相統の易行である。

(四)信心正因の三大意義

信心正因:聞其名号のそのときに涅槃の真因が定まる旨が明らかになる。

唯信正因:涅槃の真因は唯信心のみで他に何も要しない旨が明らかになる。

唯信独達:信心一つによって往生成仏の証果を得る旨が明らかになる。

即ち、信心正因は、浄土往生のみならず、成仏(仏果)の因でもあることを顕す。

故に、信心は、「報土の真因」のみならず「涅槃の真因」とも言う。

五．結び

信心正因とは本願の名号を聞信するそのときに涅槃の真因が定まることをいう。

(Ref 浄土真宗の教義と安心 P44)

以上